

段落	文	頁	行	原文	神山訳	寺沢訳
		175	6	Anmerkung.	註解	注解〔この同一性の実例〕
486	1		7 8 9 10 11	In der gewöhnlichen Vorstellung pflegen <i>extensives</i> und <i>intensives Quantum</i> so als <i>Arten von Größen</i> unterschieden zu werden, als ob es Gegenstände gäbe, die nur intensive, andere, die nur extensive Größe hätten.	普通の表象だと、【外延的な数量】と【内包的な数量】とは、あたかも、たんに内包的な〈大きさ〉だけを持つといった対象やら、たんに外延的な〈大きさ〉だけをもつといった他の対象やらがあるかのように、【大きさの〈種〉】として区別されるのがつねである。	通常の考えでは外延的の定量と内包的の定量とは大きさの種類の区別とされ、内包的な大きさだけをもつ対象があり、また外延的な大きさだけをもつ他の対象があるかのようにみなされている。
	2		11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22	Ferner ist die Vorstellung einer philosophischen Naturwissenschaft hinzugekommen, welche das Mehrere, das <i>Extensive_1</i> , z. B. in der Grundbestimmung der Materie, einen Raum zu erfüllen, so wie in andern Begriffen, in <i>ein Intensives</i> verwandelte, in dem Sinne, daß das Intensive, als das <i>Dynamische</i> die wahrhafte Bestimmung sey, und z. B. die Dichtigkeit oder spezifische Raumerfüllung wesentlich nicht als eine gewisse <i>Menge und Anzahl</i> materiel-ler Theile in einem <i>Quantum</i> Raum, sondern als ein gewisser <i>Grad</i> der raumerfüllenden <i>Kraft</i> der Materie gefaßt werden müsse.	さらに、哲学的な自然学の次のような表象が付け加えられなければならない。すなわち、たとえば、空間を充実する質料の根本規定やその他の概念においては、複数である【外延的なもの】を【内包的なもの】に変換する表象である。こうするのは、《【動力的なもの】である内包的なものが真の規定である》とする感性である。そして、たとえば、密度といった特有な空間充実を、本質的には、ある数量の空間において質料の部分が一定の【既定数や数値】のあるものとしてとらえる必要はなく、むしろ、質料がもつ《空間を充実させる【力】》の一定の【度数】としてとらえなければならない、という感性である。	さらにこれに、例えば一定の空間を充たすという物質の根本規定ならびにその他の諸概念における多重的なもの・外延的なものを内包的なものへと転化させた或る種の哲学的自然学の考えがつけ加わっている。〔このように転化させたのは〕内包的なものが動力的なものとして真の規定であり、例えば密度とか空間の比充実の本質的には、一定量の空間における物質の部分の一定の集合または集合数としてではなく、物質の〔もつ〕空間を充たす力の一定の度として把握されなければならないという意味であった。
487	1		23 24 25 26 27	Es sind hiebey zweyerley Bestimmungen zu unterscheiden; es kommt der Begriff von <i>aussereinander bestehenden selbstständigen Theilen</i> , die nur äusserlich in ein Ganzes verbunden sind, und der davon verschiedene Begriff von <i>Kraft</i> vor.	後者の場合、二様の規定を区別しなければならない。【たがいに外的に存立し続ける自立的な部分】——これはたんに外面的にのみ全体に結びつけられている——の概念と、それとは違った《【力】という概念》とが見られている。	この場合に二種類の規定を区別しなければならない。一全体のなかにたんに外的に結合され・相互外在的に成りたっている独立した諸部分という概念と、それから区別されている力の概念とが登場する。
	2		27 28 29 30 31	Was in der Raumerfüllung einerseits nur als eine Menge einander äusserlichen Atome angesehen wird, wird andererseits als die Aeusserung einer zu Grunde liegenden einfachen Kraft betrachtet.	一面では、空間充実において、たがいに外面的な原子の既定数としてだけ見なされているものが、他面では、根底にある単純な力の外化表現として考察される。	一方の考えでは空間の充実における相互に外的な原子の集合とみなされているものが、他方の考えでは根底に存する単一な力の外化とみなされている。
	3		31 32	-- Diese Verhältnisse von Ganzem und Theilen, der Kraft und ihrer Aeusserung gehören aber nicht hieher, sondern werden unten betrachtet werden.	——しかしながら、《全体と部分》とか《力とその外化表現》とかいったこうした〈関わり〉は、この議論には属さない。むしろ、それは、あとになっ	——全体と部分・力とその外化とのこの相関は、だがしかしここには属さず、もっとあとで考察されるであろう。
		177	1			

				て考察されることになるだろう ¹ 。	
	4	1 2 3 4 5 6	-- Das andere aber ist die <i>quantitative</i> Bestimmtheit, die dabey vorkommt, und in Ansehung deren die Größe als extensives Quantum aufgehoben und in den Grad, als die wahrhaft seyn sollende Bestimmung, verwandelt wird.	—だが、この場合に見られる【量的な】規定態は、これとは別の〈関わり〉であって、量的な規定態を考慮に入れると、〈大きさ〉は、外延的な数量としては廃棄されて、真に存在すべき規定である度数に転換される。	—もう一つの〔重要な〕ことは、ここで登場している量的規定態であって、これに關していえば、外延的定量としての大きさが揚棄されて、真なる規定であるとされている度へと転化されている。
488	1	7 8 9 10 11 12 13	In Ansehung dieser vermeynten Wesentlichkeit des Unterschiedes ist es hinreichend gezeigt zu haben, daß er für die Bestimmtheit des Quantums selbst unwesentlich, die eine Form aber für die andere wesentlich ist, und daher jedes Daseyn seine Größebestimmung eben so sehr als extensives wie als intensives Quantum darstellt.	このように区別には本質態があると思込まれたことを考慮に入れるなら、その区別は、数量の規定態それ自身にとって非本質的であること、しかし、それぞれの形式はたがいにあって本質的であること、したがって、どの現存在もみずからの〈大きさの規定〉を外延的な数量としても内包的な数量としても具現していること、これらのことを十分に示さなければならなかった。	この区別を本質的なものとする思いこみに関してはつぎのことを示しておけばたりる。すなわち、この区別は定量そのものの規定態にとっては非本質的であって、一方の形態が他方の形態にとって本質的なのであるから、それぞれの定在はその大きさの規定を外延的定量としても内包的定量としても表わすのである、と。
489	1	14 15	Als Beyspiel hievon dient daher alles, insofern es in einer Größebestimmung erscheint.	このことから、〈大きさの規定〉で現象するかぎりのすべてのものは、これについての例として役立つ。	だからしてあらゆるものが、大きさの規定のうちに現われる限り、このことの実例として役立つ。
	2	15 16 17	Die <i>Zahl</i> selbst hat diese gedoppelte Form nothwendig unmittelbar an ihr selbst.	【数】それ自身は、もっぱらみずから自身のもので必然的に直接的に、こうした二重の形式を持っている。	数そのものがこの二重の形態を必然的にそれ自身のもとに直接にもっている。
	3	17 18	Sie ist eine Anzahl, insofern ist sie extensive Größe.	数は、数値であり、そのかぎり、外延的な〈大きさ〉である。	数は集合数であり、その限り数は外延的な大きさである。
	4	18 19 20 21	Aber sie auch ein Eins, <i>ein</i> Zehen, <i>ein</i> Hundert; insofern steht sie auf dem Uebergange zur intensiven Größe, indem in dieser Einheit das Vielfache in Einfaches zusammengeht.	しかし、数は、一つの〈一つ〉でもある。たとえば、【一つの】一〇でもあり、【一つの】一〇〇でもある。そのかぎり、数は、内包的な〈大きさ〉への移行を示している。というのも、こうした統一（単位）のかたちで、倍数（多重のもの）が一緒になって単数（単純なもの）になるからである。	だが数は一・すなわち一つの十・一つの百でもあり、その限り数は、この〔一つの十等々の〕統一において複多的なものが単一なものへと融合することによって、内包的な大きさへの移行の途上にある。
	5	21 22 23 24	<i>Das Zehente</i> , das Hundertste ist die Einfache an ihm selbst, das seine Bestimmtheit an dem ausser ihm fallenden Mehrern hat, und ist insofern eigentlich intensive Größe.	【第一〇番目】、第一〇〇番目は、もっぱらみずから自身のものでこうした単純なものである。こうした単純なものは、みずからの規定を、みずからの外に出る複数のもとにみずからの規定態を持つ。そして、そのかぎり、【第一〇番目】、第一〇〇番	十番目のもの・百番目のものは、それ自身のものでこの〔顕在的な〕この単一のものであり、それはその規定態をその外にある多重的なもののもとにもっている、そしてその限りで十番目のもの等々は本来的に

¹ 「本質論」の課題になる。

				目は、本来的に、内包的な〈大きさ〉である。	内包的な大きさである。
	6	24 25 26 27 28	Die Zahl ist Zehen, Hundert, und dieselbe ist zugleich die Zehnte, Hundertste im Zahlensystem; beydes ist dasselbe; jede Bestimmung kann für die andere genommen werden; die zehente Zahl im Zahlensystem ist Zehen.	数は、一〇であり、一〇〇である。そして、この同じものが、同時に、〈数のシステム〉において、第一〇番目であり、第一〇〇番目である。両者は、同じものである。いずれの規定も、他の規定として受け取ることができる。〈数のシステム〉において第一〇番目の数は、一〇である。	数は十・百等々であり、かつ同時にこれらが〔自然〕数系における十番目のもの・百番目のもの等々である。両者は同一である。いずれの規定も他方の規定とみなされることができ、〔例えば、自然〕数系における十番目の数は十である。
490	1	29 30 31 32	Das Eins im Kreise heißt <i>Grad</i> , weil ein Theil des <i>Kreises</i> wesentlich seine Bestimmtheit in einem Mehrern ausser ihm hat, nur als eines einer gewissen Anzahl solcher Eins bestimmt ist.	円における〈一つ〉は、【度数】と称する。なぜなら、【円】の一つの部分は、本質的に、みずからの規定態をみずからの外の複数のうちにもつからであり、こうした〈一つ〉の一定の数値としてのみ規定されるからである。	円周における一は度とよばれる、というのは、円周の一部分はその規定態を本質的にその外にある多重的なものの中にもっており、そのような一一定の集合数のひとつとしてのみ規定されるからである。
	2	178 32 1 2	Der Grad des Kreises ist aber nur Princip der Zahl einer Größe des Kreises, nur ihr Eins.	しかし、円の度数は、ただ円の〈大きさ〉の数の原理にすぎず、その数の〈一つ〉にすぎない。	円周の度はだが円周の大きさの数の原理にすぎず、円周の大きさの一にすぎない。
	3	2 3 4	Ein Quantum selbst vom Kreise ist ein Bogen von bestimmter Größe, eine gewöhnliche Zahl, nemlich eine Anzahl solcher Eins, die Grade sind.	円についての数量それ自身は、規定された〈大きさ〉の弧であり、ふつうの数であり、すなわち、度数となるもろもろの〈一つ〉の数値である。	円周の定量そのものは規定された大きさの弧であり、通常の数・すなわちそのそれぞれが度であるような一の集合数である。
	4	4 5 6	Die- se Zahl ist extensive Größe, und intensive nur insofern, wie so eben erinnert, die Zahl diß überhaupt ist.	こうした数は、外延的な〈大きさ〉であるし、また、ただちに想起されるように、その数が一般にこうしたものであるかぎりでのみ、内包的な〈大きさ〉である。	この数は外延的な大きさである、そしていまさきに言及したように、数が一般に内包的な大きさである限りでのみ、内包的な大きさである。
491	1	7 8 9 10 11	Die Größe wirklicher Gegenstände, stellt ihre gedoppelte Seite, extensiv und intensiv zu seyn, an den gedoppelten Bestimmungen des Daseyns des Gegenstandes dar, in deren einer er als ein <i>äusserliches</i> , in der andern aber als ein <i>innerliches</i> erscheint.	現実的な対象の〈大きさ〉は、外延的でも内包的でもあるというみずからの二重の側面を、対象の現存在の二重の規定のもとで具現する。すなわち、対象は、その一方の外延的な大きさでは〈外面的なもの〉として現象するが、その他方の内包的な〈大きさ〉では【内面的なもの】として現象する。	現実的な対象の大きさは、外延的でありまた内包的であるというその二重の側面を対象の定在の二重の規定のもとに表わす、そしてこの二重の規定の一方においてははその対象は外的なものとして、他方においては内的なものとして現われる。
	2	11 12 13 14 15 16 17	So ist z. B. eine <i>Masse</i> als Gewicht, ein <i>extensiv-Großes</i> , insofern sie eine Anzahl von Pfunden, Centnern u. s. f. ausmacht; ein <i>intensiv-Großes</i> , insofern sie einen gewissen Druck ausübt; diese Größe des Druckes ist ein einfaches, ein Grad, der seine Bestimmtheit an einer Scale von Graden des Druckes hat.	こうしたわけだから、重量としての【質量】は、ポンドやツェントナーなどという数値をなすかぎり、【外延的な〈大きさ〉】であり、一定の圧を及ぼすかぎり、【内包的な〈大きさ〉】である。こうした圧の〈大きさ〉は、単純なものであり、度数であって、この度数は、圧の度数の目盛のところのみずからの規定態を持っている。	こうして例えばある質量は、それがポンド、ツェントナー等々のある集合数をつくりなす限りでは、重さとして外延的な大きさであり、それが一定の圧力を及ぼす限りでは、内包的な大きさである。圧力のこの大きさは単一なもの・度であり、度はその規定態を圧力のもろもろの度の尺度のも

						とにもっている。
	3		17 18 19	Als drückend er- scheint die Masse als ein In-sich-seyn, als Subject, dem der intensive Größenunterschied zukommt.	〈みずからの内にあること〉としての質量、すなわち主語（主体）としての質量は、圧するものとして現象するが、この主語には、内包的な〈大きさの区別〉が属性として付随する。	圧力を与えるものとして質量は自己内存在として、内包的な大きさの区別がそれに属する主体として現われる。
	4		19 20 21 22	-- Um- gekehrt was diesen <i>Grad</i> des Drucks ausübt, ist vermögend, eine gewisse <i>Anzahl</i> von Pfunden u. s. f. von der Stelle zu bewegen, und mißt seine Größe hieran.	――逆に反転して、こうした【度数】の圧を及ぼすものは、一定の【数値】のポンドなどの位置を動かすことができ、ここでみずからの〈大きさ〉を測るのである。	――逆にこの〔一定の〕度の圧力を及ぼすものは一定の集合数のポンド等々をその場所から動かすことができるのであり、このことに基づいてその大きさが測定されるのである。
492	1		23 24 25	Oder die <i>Wärme</i> hat einen <i>Grad</i> der Wärmegrad, er sey der 10te, 20ste u. s. f. ist eine einfache Empfindung, ein subjectives.	あるいは、【暖かさ】は、【度数】を持っている。一〇度、二〇度などなどといった温度は、単純な感覚であり、主観的なものである。	また熱は度をもっている。温度は十度であれ二十度であれ、単一な感覚であり・主観的なものである。
	2		25 26 27 28	Aber dieser Grad ist eben so sehr vorhanden als <i>extensive</i> Größe, als die Ausdehnung einer Flüssigkeit, des Quecksilbers im Thermometer, der Luft oder des Thons u. s. f.	しかし、こうした度数は、同じ程度に、【外延的な】大きさとして現前している。すなわち、温度計の水銀や、空気ないし音などの流動態の広がり（延長）として現前している。	だがこの度はまた同じく外延的な大きさとして、すなわち温度計内の液体〔例えば〕水銀とか・空気とか音とか等々の広がりとして現存している。
	3		28 29 30 31 32	Ein höherer Grad der Temperatur drückt sich aus als eine längere Quecksilbersäule, oder als ein schmalerer Thoncyliner; er erwärmt einen größern Raum auf dieselbe Weise als ein geringerer Grad den kleinem Raum.	より高い度数の気温は、より長い水銀柱として、あるいはより細い音管として表現される。より低い度数の気温が小さな空間を温めるのと同様に、より高い度数の気温はより大きい空間を温めるのである。	より高い温度はより長い水銀柱として・あるいはより細い音管として表現される。より低い温度がより小さい空間を熱するのと同じ仕方でもより高い温度はより大きい空間を熱するのである。
493	1	179	1 2 3 4	Der höhere <i>Ton</i> ist als der <i>intensivere</i> , zugleich eine <i>größere Menge</i> von Schwingungen, oder ein lauterer <i>Ton</i> , dem ein höherer <i>Grad</i> zugeschrieben wird, macht sich in einem größern Raume hörbar.	より高い【音】は、【内包的な音】として、同時に、【より大きな既定数】の振動である。あるいは、より高い【度数】が帰せられるより澄んだ音は、より大きな空間で聞こえる。	より高い音はより内包的な〔より強い〕音であると同時に、振動数のより大きな集合でもあり、またより高い度がそれに帰せられているより大きな音はより大きな空間できこえる。
	2		4 5 6 7 8	-- Mit der intensivern <i>Farbe</i> läßt sich eine größere Fläche, als mit einer schwächern, auf gleiche Weise färben; oder das <i>Hellere</i> , eine andere Art von Intensität, ist weiter sichtbar als das weniger Helle u. s. f.	――より弱々しい色によるよりも、より内包的な（強烈な）【色】のほうが、より大きな平面を色づけるのは、同じあり方である。あるいは、別種の内包態（強度）である【より明るいもの】は、より明るくないものなどよりもいっそうよく見える。	――より弱い色でぬられるのと同じ仕方でも、より内包的な〔より強い〕色ではより大きな面に色がぬられる。またこれも強度の別の種類であるより明るいものはより明るくないものよりもより広いところで見える、等々。
494	1		9	Eben so im <i>Geistigen</i> ist die hohe <i>Intensität</i>	同様に、【精神的なもの】においても、性格や才	精神的なものでも同様に、性格・才能・

2 明らかな誤訳だと思われる。

		10	<i>tät</i> des Charakters, Talents, Genies, von eben so	能、天才の【高い内包態（強度）】は、同様に【包	天才の高い強度とは、またまさに範囲の広
		11	<i>weitgreifendem</i> Daseyn, <i>ausgedehnter</i> Wir-	括的な】現存在（生存）や【広がりのある】作用、	い定在・ひろがった作用・多面的な接触を
		12	kung und <i>vielseitiger</i> Berührung.	【多面的な】接触からくるものである。	もつものである。
	2	12	Der <i>tiefste</i>	【もっとも高い概念】は、【もっとも普遍的な】意	もっとも深い概念はもっとも普遍的な意
		13	<i>Begriff</i> hat die <i>allgemeinste</i> Bedeutung und An-	味と適用を具えている。	味と適用とをもっているのである。
		14	wendung.		